

介護老人保健施設のインフルエンザ対策 第3報

～併設病院の感染管理認定看護師との連携～

相場 健一¹⁾ 滝原 典子¹⁾ 三ツ倉 裕子²⁾ 美原 恵里³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 看護介護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 医療関連感染対策室

3) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 施設長

[はじめに]我々は、平成 25 年平成 28 年の全国老人保健施設大会にて、施設のインフルエンザ対策に必要なことと題して、当施設がインフルエンザのアウトブレイクを経験したことを契機に施設の感染対策を見直したことで、その後のアウトブレイクの発生を抑えたことを報告した。そのような中、平成 30 年 2 月、再び当施設の認知症専門棟でインフルエンザ迅速検査(迅速検査)が陽性を呈した利用者が発生した。しっかりと対策していたにもかかわらず、なぜ複数の利用者が陽性となったのかその原因を明らかにするために、今回、併設病院の感染管理認定看護師(認定看護師)に調査協力を仰いだ。その結果を受けて当施設の感染対策をもう一度検証し、今後の対策について検討したので報告する。

[施設紹介]当施設は、平成 30 年度介護報酬改定により超強化型老健に算定されており、入所定員は 100 名(一般棟 54 名、認知症専門棟 36 名、ユニット棟 10 名)である。また、当施設は脳卒中を主とした神経疾患の専門病院に併設しており、これまでに併設病院とは感染対策において連携を図ってきた。併設病院には認定看護師が 1 名在籍している。

[経過]平成 30 年 2 月 X 日認知症専門棟において体温 38 度を超える発熱者が発生、我々はマニュアルに従い直ちに隔離対策を実施した。しかし、X+2 日に 4 名、X+4 日に 9 名と発熱者が増加した。X+4 日のインフルエンザ迅速検査では同時に 4 名が陽性と判定された。陽性者には抗ウイルス剤の治療投与し、他の全利用者に対しては予防投与を行った。アウトブレイクに繋がる可能性があったため、すぐに併設病院の認定看護師にこれまでの状況を報告し、今後の対策と今回の原因を明らかにするために協力を仰いだ。

[認定看護師に依頼したこと]1. 当施設の感染状況と感染対策の現状確認 認定看護師の現地調査により、施設は病院と異なり利用者間の交流が盛んなため感染が拡大しや

すい状況にあることが指摘された。2. 感染対策の勉強会 認定看護師を講師として手袋・マスクの装着、手指消毒、環境清掃方法について勉強会を企画した。勉強会は全職員が受講できるように日勤業務や昼食時間を利用し、1回30分間で全9回開催された。勉強会には職員107名(受講率93.9%)が参加した。3. 感染源と感染経路の特定 当施設のデータを示し、認定看護師に感染源と感染経路の特定を依頼した。認定看護師は、感染源を特定するために、あるショートステイのリピート利用者に注目した。この利用者は利用開始日から微熱があり、その後、迅速検査で陽性を示していた。認定看護師はこの利用者が感染源となり、インフルエンザウイルスが持ち込まれた可能性があるとした。また、この利用者が当時頻脈であったことに注目し、普段のバイタルサインの傾向をみると、微熱を示すことはあっても、頻脈はなく、この脈拍の異常から早期発見に繋がられる可能性を指摘した。感染経路の特定では、当時施設内で誕生日会が催されており、その時の利用者間の交流や職員との関わりから感染が拡大した可能性も想定された。

[感染対策の結果]今回、認知症専門棟において利用者4名と職員1名から迅速検査の結果が陽性と出た。感染対策費用として、抗ウイルス剤252個(治療投与30個、予防投与222個)の費用70,938円と迅速検査15回の費用22,050円が必要であった。その他にもマスク使用量や手指衛生剤使用量、清掃回数などについて追加の費用が必要となった。

[考察]インフルエンザ対策においてまず重要なことは、施設内にウイルスを持ち込まないことである。しかし、入退所の多い当施設ではウイルスの侵入をゼロにすることは極めて困難である。次に求められることは、いかに早く感染源を発見するかということである。これまで我々は十分なインフルエンザ対策を行ってきたと考えていたが、認定看護師の調査協力により感染源となる利用者の脈拍の異常を見落としていたことが明らかになった。日々の観察の重要性を改めて認識することができた。近年、病院を中心にさまざまな分野で認定看護師のような専門的な知識・技術を持つ人材が増えている。このような人材を活用できる環境にあることは当施設の強みと考える。

[まとめ]当施設の認知症専門棟において、複数の利用者を実施した迅速検査が陽性となった。我々は感染対策の強化と感染源・感染経路の究明のために併設病院に所属する認定看護師に調査協力を仰いだ。認定看護師は、当施設の感染状況を確認し、勉強会の講師を務めた。また、データを分析することで感染源および感染経路を絞り込み、

今回の感染対策の課題を明らかにした。認定看護師の協力により感染拡大は最小限に抑えることができた。一方、対策費用は抗ウイルス剤と迅速検査の費用、その他にマスク、手指衛生剤、清掃などに追加費用が必要であった。引き続き認定看護師と連携を深めていくことで当施設の感染対策の質を高めていきたい。

[引用・参考文献]1)相場健一他:介護老人保健施設のインフルエンザ対策に必要なこと. インフルエンザのアウトブレイクを経験して. 第24回全国介護老人保健施設大会 石川. 69. 7. 2013 2)相場健一他:介護老人保健施設のインフルエンザ対策に必要なこと. インフルエンザのアウトブレイクを経験して 第2報. 第27回全国介護老人保健施設大会 大阪. 48. 9. 2016